

2022（令和4）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492900483	事業の開始年月日	平成17年12月1日
		指定年月日	平成29年12月1日
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ厚木荻野グループホーム		
所在地	( 243-0203 ) 神奈川県厚木市下荻野1110-1		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和4年12月5日	評価結果 市町村受理日	令和5年5月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者一人一人の潜在能力の活用および入居者同士の互助力を大切にすることや施設に住まいながらも地域参加できる暮らしが継続できるよう、職員一同支援しております。また、職員一人一人が主体的に働けるよう得意分野を活かした各種委員会の設置や、働きやすさに配慮した多様なシフトパターンの提案をはじめ、業務内での定期面談、内外の研修参加促し等々を行っています。そして、管理者のみならず介護職員一人一人がご家族に対して日々のご様子をお伝えできるよう、介護記録や伝達を通して情報共有を細やかに行ってまいります。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年3月6日	評価機関 評価決定日	令和5年5月4日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、小田急線「本厚木」駅北口バス停1番から神奈中バスに乗り「荻野新宿」バス停で下車、徒歩3分ほどの旧大山街道沿いがあります。近隣にはスーパーマーケットやドラッグストア、美容院、喫茶店などの店舗がある利便性の高い場所に立地しています。運営法人は、デイサービス事業を主体として介護サービス事業を幅広く展開しています。

<優れている点>

法人理念「真心のこもったサービス提供」を毎朝唱和し、日々理念を具現化したケアの提供に取り組んでいます。所長は毎月の法定研修をはじめとして、職員が自ら専門知識・技能を学び資質の向上に努める風土づくりに取り組んでいます。今年度は3人の有資格者が誕生し、ケアの一層の充実に向けた体制作りが進んでいます。食事は毎食職員が調理し、作り立ての食事を提供しています。利用者の嗜好に配慮しパンとごはんが選べ、イベント食ではちらし寿司やおはぎ等を提供しています。行事の際は弁当の購入や飲酒する等、食事を楽しんでいます。介護記録はペーパーレスで全てタブレットに記録し職員は情報を共有して利用者支援に努めています。

<工夫点>

ドリンクサーバーを設置し、コーヒー・紅茶等が自由に飲むことができ、自主選択にも繋げています。服薬ロボットを使用することにより、誤薬防止に加え、職員の業務負担も軽減しています。コロナ禍のさなか、イベントなどでの本人の笑顔の写真や生活の状況を載せ、利用者ごとに作成した「ご様子のおしらせ」を毎月、家族に送り喜ばれています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ツクイ厚木荻野グループホーム
ユニット名	コアラユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会社の理念を玄関および各ユニットフロアに掲示し、唱和を行っています。また、事業所理念である「真心のこもったサービス提供」について、毎日朝礼で本日行うその具体的なケア内容について全職員が発表し、理念の共有および実践に努めております。	毎日の朝礼で企業経営理念「地域に根付いた真心のこもったサービス提供…」及び、社訓「顧客重視・個人尊重・チームワーク」を唱和しています。具体的に、理念を今日どう実践するかを職員は一人ひとり発表し、利用者のケアに取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染症の影響で積極的に外部との交流ができない状況でしたが、自治会加入を継続し情報収集を行いました。また、感染対策を行い、近所の美容院やスーパー、喫茶店や教会などには出かけたりしていました。	コロナ禍で諸行事は中止となつていますが自治会役員や民生委員などと情報交換を行っています。話し合いの中で今後の活動として、回覧板にホームの情報を載せ、しおりやパンフレットで地域住民に周知し、認知症啓蒙活動の実施を検討しています。中学生の職業体験も再開を検討しています。	自治会とは回覧板を通じて、ホームの情報を地域に発信する協議が始まっています。地域包括支援センターと共同でオレンジカフェ開催の計画もあり専門性を活かした啓蒙活動の実施が期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現在、隣にある神社は高齢化および後継者不足で神主不在の状況です。そのため、定期的に職員とご利用者で境内のゴミ拾いを行い、ささやかな地域貢献をしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス感染症の影響で2か月に1回、書面開催で行いました。施設の運営状況を詳細に記載し、写真掲載をとおして内容がより伝わるよう努めました。なかなかサービスに活かすご意見等は頂けない現状がありました。	書面会議で隔月実施しています。民生委員、老人会会長、自治会長、地域包括支援センター職員、入居者家族、利用者などが参加し活動報告など意見交換しています。参加者にはアンケート用紙を添付しています。洗面台の水の出が悪いという意見には直ぐ対応し改善しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	なるべく窓口足を運ぶように心がけ、運営推進会議のご意見聴取や報酬改定に伴う計画作成配置についての相談など積極的に連絡を行うように努めました。	行政には直接出向き、必要書類などを手渡しするようにしています。厚木市介護福祉課の職員とは介護認定更新手続きなどの関連で出向いています。荻野包括支援センターとは、オレンジカフェの共同企画や、VRを使用した認知症体験会などの企画などで連携しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	毎月必ず身体拘束禁止・虐待防止委員会を開催し、身体拘束および虐待に関わる自己☑表の集計を行うほか、身体拘束や虐待、不適切なケアをテーマに、今注目のニュースやYouTube動画を活用して注意喚起を行っております。また、年2回の研修会を実施し、年1回虐待についてのアンケートを匿名で実施しています。	毎月身体拘束禁止・虐待防止委員会を実施しています。委員は所長・計画作成担当者・1.2階担当者の4名です。職員は委員会議事録の回覧や動画の視聴などで学び、身体拘束をしないケアに努めています。携帯アプリを使用して注意喚起を促しています。職員は自己チェックを実施し実態を法人が把握しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	上記委員会の活動のほか、事業所内での虐待が見過ごされることのないよう、SQ（サービスクオリティ）委員会が写真の活用をとおして皮下出血の後追いや検討を行い、防止に努めています。また、スタッフルームに各種通報窓口番号を掲示しています。	虐待防止について職員は動画の視聴などで研修し学んでいます。所長は虐待を生まない、隠しあわない意識・職場風土を目指し、あざの報告などは必ず写真を撮り介護技術の向上に取り組んでいます。スピーチロックなどに気づいた時はその場で直ちに注意喚起しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社会福祉協議会が開催する成年後見制度についての研修会に参加するほか、実際に成年後見制度を利用している方が2名いらっしゃいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結の際は、分かり易い言葉を選び、理解およびご納得できるように努めています。また、解約または改定等の際は、文書上で説明を行うほか、必要に応じて対面もしくはお電話でご説明をしております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	CS（お客様満足度）調査をご家族に実施しているほか、施設玄関にご意見箱を設置し、毎月のモニタリングの際にご意見をお伺いしております。また、ご意見を聴取しやすいよう毎月ご家族へ写真入りのお便りをお送りしています。	家族等の面会は要望に応じて、玄関先で予約制にして15分以内で実施し、利用者と直接会うことで不安を解消しています。イベントなどでの本人の笑顔の写真や生活の状況を載せた「ご様子のおしらせ」を毎月利用者ごとに作成し、家族に送り喜ばれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ何でも相談室の電話番号を入り口に掲示し活用アナウンスを行っているほか、毎月の全体会議やカンファレンス用紙の提出、定期面談の機会をとおして提案を聞く場をもつようになっています。	所長は経営理念「真心のこもったサービスの提供」をケアにどう活かすか、職員に投げかけ意見を聞いています。ひな祭りの企画では手巻き寿司やつるし雛に職員の創意が活かされています。食器の変更や、部屋干しを利用者が自分であるなどの意見を反映して運営しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年1回ストレスチェックのアンケート実施を行い、雇用契約期間終了1か月前に面談を必ず実施し今後のキャリアや希望の労働時間等々の話を聞く時間をもっています。また、定期面談において、キャリア形成を含む研修参加の提案などを行っています。	全体会議を毎月全員参加で開催しています。多くの職員が参加できるように19時から21時まで実施していますが、変形労働時間制の導入により毎月残業時間は0です。有給休暇もしっかり取得出来ています。各フロアにタブレットを配置し介護記録に活用しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員は、現場に入る前に必ず本社の集合研修を実施し、必要な情報を獲得して頂いています。また12か月間はエルダー制度の育成計画に沿って研修を行っています。そして階層毎に必要な能力をリモートやEラーニングをとおして学ぶ機会を提供しています。	社内には人材育成・教育・研修制度を整備しています。毎月の法定研修をはじめ、職員が専門知識・技能を学び資質の向上に努める職場風土づくりに取り組んでいます。今年度は3人の有資格者が誕生し、新任者には県社会福祉協議会キャリアパス研修も推進しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	社内ではグループホーム部会をとおして、他グループホーム管理者と毎月情報交換を行い、社外では新型コロナウイルス感染症によって動きは鈍いものの、市内のグループホーム連絡会をとおして、情報交換をしています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	多くのご利用者は、ご本人の意志とは関係なくいつの間にか生活場が変わり、大きな戸惑いを覚えている状況にあります。そのご本人がまず今何に困り不安を感じているのかをお聞きし、安心感を持って頂けることに注力し関わるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス利用開始直後は、入所させてしまった自責感のほか、どのように生活が継続していくのか金銭面を含め大きな不安をもっている。そのセンシティブな感情に配慮し、通常以上に連絡や報告を行い、安心感を持って頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前のCMや関係機関からも情報収集を行い、ご本人や家族のニーズと入所がマッチングしているのかを入居判定会議でまず見極め、必要に応じて地域の包括や他職種と連携しながら支援をするように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共助である介護保険施設に住んでいても、自分のことはできるだけ行う自助の実践のほか、暮らしを共にする者同士が助け助けられながら互助ある暮らしができるよう、生活のなかにあるその営みを大切にできるように支援しております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	介護施設の職員のマンパワーだけでは、ご利用者一人一人の生活を支えることは到底難しい。ご家族とご本人との関係性を理解しながら、それぞれの立場だからできる援助を行い、連携を取るように努めています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナウイルス感染症によって、積極的な活動はできなかったものの、時期をみながら今まで通っていた教会やお墓参りなどにご家族やご友人と一緒に出席して頂いたり、zoom面会やzoomミサなどできる限り方法を考え実行しました。	コロナ禍ではありましたが、その時々々の状況を検討して、教会のミサへの参加や墓参りなど家族や友人の協力を得て実施しています。各ユニットに1台家族・利用者専用のスマートホンを設置して、いつでも電話や映像付きのリモート会話が楽しめる体制を作り支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共同生活場のフロアにおける座席は、環境整備の観点からとても重要だと考えています。利用者同士の関係性において、会話の活発化や助け合える仕組み作りの一つとして席替えを定期的に行っています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	今期、ご逝去によってご退去されたご家族からご連絡を頂き、その方の遺した畑にみんなで出かけ、じゃがいも堀りをさせて頂きました。そして、帰ってきてからじゃがいも餅をみんなで作り、その方を偲ぶ時間を設けました。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今まで朝食はパンだった方は、白飯と選択できるよう希望を聞き取ったり、同じパン食でもトーストする方とそのままの方など、意向にあわせた食の提供を行っています。また、ドリンクバーを設置し、いつでも好きな飲み物をセルフで飲めるようにしています。	アセスメントや日々の会話、職員と会話ができる夜勤帯などに利用者の意向を聞ける機会が多く、その思いはタブレットに入力し共有します。ご飯よりパンが良い、飲酒したい、コロナ禍の為にリモートでミサに参加したい等、利用者の意向を把握し支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方、してほしいケアとしてほしくないケアなど、職員のみならず派遣職員も把握できるよう、個人ファイルのTOPページにA4 1枚程度写真つきでシートを作成しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎月、計画作成担当者がアセスメントを実施し、ケアプランに反映させています。また、毎月1回ケアカンファレンスを開催し、現状把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者が主となって、ご本人やご家族、医療関係者と連携を図りながら介護計画を作成しています。	モニタリングを行い、本人・家族や医師などの意見も取り入れ、事業所の理念にある「真心こもったサービス」を念頭に置いた介護計画を作成しています。入居時は3ヶ月、その後は短期目標（6ヶ月）更新時に見直し、状態に変化があれば、都度見直します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケア実践の記録を電子媒体であるSCOPというソフトに入力し、職員間および他職種間でも情報共有をしています。それらの情報をケアカンファレンスで再検討し、介護計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	新型コロナウイルス感染禍だからこそ、今まで考えつかなかった一人一人に生まれるニーズに対する新たなサービス（zoom面会、QRコード入りHPチラシ作成、各階専用携帯など）を開始できたことがありました。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	厚木市のケアマネ部会に加入し、地域資源の情報収集に努めています。また、厚木市の地域イベント情報等を定期的にチェックし、それぞれの入居者が興味のあるイベントに参加できるよう努めましたが、新型コロナウイルス禍、消極的な活動に留まりました。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	回診医は2か所の病院と連携をとっており、入所時にご家族に選択して頂いております。また、いままでかかっていた医師のところ定期的に通院されている方も3名程いらっしゃいます。	協力医療機関2医院（内科・精神科）から選択し利用者全員が受診しています。健康観察で週1回看護師が来訪し歯科医は毎週、衛生士が週2回来訪し口腔機能の維持に努めています。定期検診など専門医への受診は、家族が同行し通院シートで情報を共有します。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回、連携している訪問看護ステーションの看護師が来所し、ご利用者の医療処置（巻き爪や摘便など）や医療面で職員の相談にのってくれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ご家族に同行し病状経過の説明をするほか、介護サマリーを提出しています。また、入院中はMSWへ連絡し、円滑な退院が行えるよう関係づくりをおこなっています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約締結時に、重度化および終末期についてご本人とご家族にご説明をし、書面にて署名捺印を頂いております。また、年1回、看取りに関するアンケートをご本人もしくはご家族に聞き取りを行い、情報更新をしています。	契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」で事業所の方針を説明し同意を得ています。「看取りの事前意思確認書」も取りつけ毎年確認しています。この1年間で数名の看取りを経験しています。終末期ケア・グリーフケアの研修を3月に予定しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年1回、急変や事故発生時に関する研修を実施しています。また、消防署予防課が主管する研修に例年参加し、緊急時対応の訓練を実施しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災委員会が主導し、年2回の消防訓練を実施しているほか、倉庫の備蓄品管理を行っています。また、毎月1日に備蓄品を活用して防災食をみんなで作り、有事に備えています。ただ、地域との協力体制は築けていない状況があり、今後の課題です。	災害マップで事業所のリスクを確認し業務継続計画を作成しています。災害訓練を年2回実施していますが、近隣住民の協力は得られていません。3日分の食料などを災害備蓄し、毎月1日は手際よく提供できるよう災害を想定して食事を作り備えています。	隣接するマンションの管理組合に協力を依頼し、避難訓練に参加してもらうなどして、地域と協力体制を築く事が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	年1回の研修会実施や、毎月接遇のミニ研修を実施しています。	法定研修の接遇マナーに加え、毎月ミニ研修を行い言動やプライバシーに注意を払っています。同性介助の希望に応じ、往診医の受診の際は、利用者に受診したい希望の場所を確認し行っています。パソコン入力は法人の権限付与の決まりに沿って取り扱っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活の中で、出来るだけご本人の好みや希望を引き出せるよう、ちらし寿司やお弁当、飲み物など異なる種類のものを用意したり選択できる場面を多く持てる様にサービス提供をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床の遅い方は、その方のペースに合わせた朝食提供を、ご入浴に関しても基本曜日はあるものの、ご本人の気分に合わせてサービス提供を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髪を伸ばしたり、カラーで染めたり、時には近所のしまむらへ衣類を買いにでかけたり。在宅にいた時とお変わりない様、ご本人のおしゃれを楽しむ気持ちを大切に、支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	テーブル拭きや手拭きタオル配り、お茶入れや小鉢への盛付、野菜切りから炒め物、茶碗洗いから茶碗拭きなど、一人一人の潜在能力を活用して一緒に食事作りや片付けを行っています。	栄養士が献立したレシピ付きの食材を職員が調理しています。利用者は調理や盛り付けなどを行い食事に関わりません。利用者の嗜好に配慮しパン食やちらし寿司、おはぎ等を提供しています。行事の際に弁当の購入や飲酒する等でも食事を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士が作成したメニュー表をもとに調理しています。1日熱量が1800kcal、蛋白質65g、脂質60g、炭水化物200g、塩分9g前後に計算されており、1日1500mlの水分提供を基本としています。また1品ずつ提供などその人の状態に合わせて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、ご利用者の身体状況に合わせて口腔介助および見守りを行っています。また、週1回歯科衛生士が来所し口腔ケアを実施するほか、歯科相談にのってもらするなど、口腔内清潔保持に努めています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来る限りリハビリパンツではなく布パンツの使用へと切替られるよう、取り組みを行っています。また、24時間の排せつ記録を用いて一人一人の排せつパターン把握に努めています。	利用者の排泄パターンを把握して必要な人にトイレでの排泄を支援しています。管理者は、おむつなどの使用が利用者にとってどれだけ不快であるかの理解を職員に求め、リハビリパンツから布パンツへ移行できるよう職員が支援を続け、改善した人が多数います。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	刺激性下剤の服用をできるだけ行わず、牛乳やヨーグルト、オリゴ糖や寒天ゼリーなど補助食品の活用と、歩行量を増やす活動とを併せ便秘解消にむけ取り組みを行っています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的には、午前中が浴室開放時間となっております。ただ、ご本人の希望やご都合で午後や夜間ご入浴となることもあり、その時々で柔軟に対応できるようにしています。	利用者は、概ね週2回入浴しています。午後や毎日の入浴、同性介助の希望に対応します。湯船をまたげる人は浸かってもらい、入浴を好まない人は清拭対応です。毎回湯を替え清潔を保ち、入浴中に鼻歌が出るなど、利用者は、楽しみながら入浴しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中活動時間は6:00~21:00となっておりますが、9:00まで寝ている方や23:00までテレビをみて起きている方など、今までの生活習慣を大切にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ご利用者が内服しているお薬の内容および副作用が記載されている専用ファイルを作成し、その内容を2週間ごとに更新、確認しています。また、管理薬剤師と連携を取り、薬の形状などの相談を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日本舞踊をしていた方が数名いらっしゃるので、秋には全員浴衣に着替え盆踊りをしています。また、父の日には男性入居者だけで居酒屋へ出かけたり、今までの生活歴を大切に支援に努めています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍ではありましたが、感染対策をして近所のサンドラックやイオンに買い物へ行ったり、季節毎、桜や曼珠沙華、稲刈り、バラ園などへでかける他、宮ヶ瀬ダムや飯山温泉郷へ遠足へ出かけました。必要毎、デイサービスと連携し、バスを借りています。	コロナの感染状況を見極め感染対策を施し、近隣への散歩や買物、初詣に出かけています。車を使用しての花見や宮ヶ瀬ダムなどに出かけています。父の日には男性利用者数人が居酒屋で飲食や飲酒を楽しみました。外出を好まない人は外気に触れ気分転換しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人が居室でお金を管理することはありませんが、近所の買い物時は、ご利用者にお支払い工程をお願いしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	コロナ禍、各ユニットに専用の携帯を用意し、24時間365日、いつでもご利用者にご家族が連絡をとれる環境を整えました。また、手紙を文通している方もいらっしゃいます。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間は清潔を心掛けています。また、季節を感じられるようフロアや玄関などあちらこちらに季節の生花および造花、タペストリーを飾っています。	適宜窓を開放し空調設備を整え温・湿度管理をしています。採光が良い時間帯はカーテンで調節しています。台所は対面式で食事の準備中に五感が刺激し易い作りになっています。雛人形を飾り、室内や玄関先に生花を活けたり花を育てるなどして、季節を感じられるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各居室が用意されているので、一人になりたい時はお部屋で過ごされ、みなさんと交流されたい時は、自席のほかにフロアに2か所ソファを用意し、ご利用者同士団欒できるよう環境を整えています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	照明やカーテン、エアコン、介護ベッドを備え、ご自宅で使い慣れた棚やタンスはご持参頂いています。居室の清掃は、毎日の日課として職員と一緒にご利用者に行ってもらい、足りないところはクリーンサポーターが実施しています。	事業所の備えは、照明、介護ベッド、エアコン、カーテン、クローゼットで利用者はラジオ、写真など、好みの品を持ち込んでいます。掃除専従職員が居室や共有空間の仕上げ清掃をして清潔を保っています。居室表示を新調し廊下の装いをスッキリさせました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご利用者が一緒に掃除や家事が行えるよう、ご利用者が手に届く場所に生活用品を置くようにしております。		

事業所名	ツクイ厚木荻野グループホーム
ユニット名	鮎ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会社の理念を玄関および各ユニットフロアに掲示し、唱和を行っています。また、事業所理念である「真心のこもったサービス提供」について、毎日朝礼で本日举行うその具体的なケア内容について全職員が発表し、理念の共有および実践に努めております。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染症の影響で積極的に外部との交流ができない状況でしたが、自治会加入を継続し情報収集を行いました。また、感染対策を行い、近所の美容院やスーパー、喫茶店や教会などには出かけたりしていました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現在、隣にある神社は高齢化および後継者不足で神主不在の状況です。そのため、定期的に職員とご利用者で境内のゴミ拾いを行い、ささやかな地域貢献をしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス感染症の影響で2か月に1回、書面開催で行いました。施設の運営状況を詳細に記載し、写真掲載をとおして内容がより伝わるよう努めました。なかなかサービスに活かすご意見等は頂けない現状がありました。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	なるべく窓口足を運ぶように心がけ、運営推進会議のご意見聴取や報酬改定に伴う計画作成配置についての相談など積極的に連絡を行うように努めました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	毎月必ず身体拘束禁止・虐待防止委員会を開催し、身体拘束および虐待に関わる自己☑表の集計を行うほか、身体拘束や虐待、不適切なケアをテーマに、今注目のニュースやYouTube動画を活用して注意喚起を行っております。また、年2回の研修会を実施し、年1回虐待についてのアンケートを匿名で		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	上記委員会の活動のほか、事業所内での虐待が見過ごされることのないよう、SQ（サービスクオリティ）委員会が写真の活用をとおして皮下出血の後追いや検討を行い、防止に努めています。また、スタッフルームに各種通報窓口番号を掲示しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社会福祉協議会が開催する成年後見制度についての研修会に参加するほか、実際に成年後見制度を利用している方が2名いらっしゃいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結の際は、分かり易い言葉を選び、理解およびご納得できるように努めています。また、解約または改定等の際は、文書上で説明を行うほか、必要に応じて対面もしくはお電話でご説明をしております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	CS（お客様満足度）調査をご家族に実施しているほか、施設玄関にご意見箱を設置し、毎月のモニタリングの際にご意見をお伺いしております。また、ご意見を聴取しやすいよう毎月ご家族へ写真入りのお便りをお送りしています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ何でも相談室の電話番号を入り口に掲示し活用アナウンスを行っているほか、毎月の全体会議やカンファレンス用紙の提出、定期面談の機会をとおして提案を聞く場をもつようになっています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年1回ストレスチェックのアンケート実施を行い、雇用契約期間終了1か月前に面談を必ず実施し今後のキャリアや希望の労働時間等々の話を聞く時間をもっています。また、定期面談において、キャリア形成を含む研修参加の提案などを行っています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員は、現場に入る前に必ず本社の集合研修を実施し、必要な情報を獲得して頂いています。また12か月間はエルダー制度の育成計画に沿って研修を行っています。そして階層毎に必要な能力をリモートやEラーニングをとおして学ぶ機会を提供しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	社内ではグループホーム部会をとおして、他グループホーム管理者と毎月情報交換を行い、社外では新型コロナ感染症によって動きは鈍いものの、市内のグループホーム連絡会をとおして、情報交換をしています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	多くのご利用者は、ご本人の意志とは関係なくいつの間にか生活場が変わり、大きな戸惑いを覚えている状況にあります。そのご本人がまず今何に困り不安を感じているのかをお聞きし、安心感を持って頂けることに注力し関わるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス利用開始直後は、入所させてしまった自責感のほか、どのように生活が継続していくのか金銭面を含め大きな不安をもっている。そのセンシティブな感情に配慮し、通常以上に連絡や報告を行い、安心感を持って頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前のCMや関係機関からも情報収集を行い、ご本人や家族のニーズと入所がマッチングしているのかを入居判定会議でまず見極め、必要に応じて地域の包括や他職種と連携しながら支援をするように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共助である介護保険施設に住んでいても、自分のことはできるだけ行う自助の実践のほか、暮らしを共にする者同士が助け助けられながら互助ある暮らしができるよう、生活のなかにあるその営みを大切にできるように支援しております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	介護施設の職員のマンパワーだけでは、ご利用者一人一人の生活を支えることは到底難しい。ご家族とご本人との関係性を理解しながら、それぞれの立場だからできる援助を行い、連携を取るように努めています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナウイルス感染症によって、積極的な活動はできなかったものの、時期をみながら今まで通っていた教会やお墓参りなどにご家族やご友人と一緒に出席して頂いたり、zoom面会やzoomミサなどできる限り方法を考え実行しました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共同生活場のフロアにおける座席は、環境整備の観点からとても重要だと考えています。利用者同士の関係性において、会話の活発化や助け合える仕組み作りの一つとして席替えを定期的実施しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	今期、ご逝去によってご退去されたご家族からご連絡を頂き、その方の遺した畑にみんなで出かけ、じゃがいも堀りをさせて頂きました。そして、帰ってきてからじゃがいも餅をみんなで作り、その方を偲ぶ時間を設けました。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今まで朝食はパンだった方は、白飯と選択できるよう希望を聞き取ったり、同じパン食でもトーストする方とそのままの方など、意向にあわせた食の提供を行っています。また、ドリンクバーを設置し、いつでも好きな飲み物をセルフで飲めるようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方、してほしいケアとしてほしくないケアなど、職員のみならず派遣職員も把握できるよう、個人ファイルのTOPページにA4 1枚程写真つきでシートを作成しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎月、計画作成担当者がアセスメントを実施し、ケアプランに反映させています。また、毎月1回ケアカンファレンスを開催し、現状把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者が主となって、ご本人やご家族、医療関係者と連携を図りながら介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケア実践の記録を電子媒体であるSCOPというソフトに入力し、職員間および他職種間でも情報共有をしています。それらの情報をケアカンファレンスで再検討し、介護計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	新型コロナウイルス感染禍だからこそ、今まで考えつかなかった一人一人に生まれるニーズに対する新たなサービス（zoom面会、QRコード入りHPチラシ作成、各階専用携帯など）を開始できたことがありました。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	厚木市のケアマネ部会に加入し、地域資源の情報収集に努めています。また、厚木市の地域イベント情報等を定期的にチェックし、それぞれの入居者が興味のあるイベントに参加できるよう努めましたが、コロナウイルス禍、消極的な活動に留まりました。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	回診医は2か所の病院と連携をとっており、入所時にご家族に選択して頂いております。また、いままでかかっていた医師のところ定期的に通院されている方も3名程いらっしゃいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回、連携している訪問看護ステーションの看護師が来所し、ご利用者の医療処置（巻き爪や摘便など）や医療面で職員の相談にのってくれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ご家族に同行し病状経過の説明をするほか、介護サマリーを提出しています。また、入院中はMSWへ連絡し、円滑な退院が行えるよう関係づくりをおこなっています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約締結時に、重度化および終末期についてご本人とご家族にご説明をし、書面にて署名捺印を頂いております。また、年1回、看取りに関するアンケートをご本人もしくはご家族に聞き取りを行い、情報更新をしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年1回、急変や事故発生時に関する研修を実施しています。また、消防署予防課が主管する研修に例年参加し、緊急時対応の訓練を実施しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災委員会が主導し、年2回の消防訓練を実施しているほか、倉庫の備蓄品管理を行っています。また、毎月1日に備蓄品を活用して防災食をみんなで作り、有事に備えています。ただ、地域との協力体制は築けていない状況があり、今後の課題です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	年1回の研修会実施や、毎月接遇のミニ研修を実施しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活の中で、出来るだけご本人の好みや希望を引き出せるよう、ちらし寿司やお弁当、飲み物など異なる種類のもので用意したり選択できる場面を多く持てる様にサービス提供をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床の遅い方は、その方のペースに合わせた朝食提供を、ご入浴に関しても基本曜日はあるものの、ご本人の気分に合わせてサービス提供を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髪を伸ばしたり、カラーで染めたり、時には近所のしまむらへ衣類を買いにでかけたり。在宅にいた時とお変わらない様、ご本人のおしゃれを楽しむ気持ちを大切に、支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	テーブル拭きや手拭きタオル配り、お茶入れや小鉢への盛付、野菜切りから炒め物、茶碗洗いから茶碗拭きなど、一人一人の潜在能力を活用して一緒に食事作りや片付けを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士が作成したメニュー表をもとに調理しています。1日熱量が1800kcal、蛋白質65g、脂質60g、炭水化物200g、塩分9g前後に計算されており、1日1500mlの水分提供を基本としています。また1品ずつ提供などその人の状態に合わせて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、ご利用者の身体状況に合わせて口腔介助および見守りを行っています。また、週1回歯科衛生士が来所し口腔ケアを実施するほか、歯科相談にのってもらするなど、口腔内清潔保持に努めています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来る限りリハビリパンツではなく布パンツの使用へと切替られるよう、取り組みを行っています。また、24時間の排せつ記録を用いて一人一人の排せつパターン把握に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	刺激性下剤の服用をできるだけ行わず、牛乳やヨーグルト、オリゴ糖や寒天ゼリーなど補助食品の活用と、歩行量を増やす活動とを併せ便秘解消にむけ取り組みを行っています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的には、午前中が浴室開放時間となっております。ただ、ご本人の希望やご都合で午後や夜間ご入浴となることもあり、その時々で柔軟に対応できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中活動時間は6:00~21:00となっておりますが、9:00まで寝ている方や23:00までテレビをみて起きている方など、今までの生活習慣を大切にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ご利用者が内服しているお薬の内容および副作用が記載されている専用ファイルを作成し、その内容を2週間ごとに更新、確認しています。また、管理薬剤師と連携を取り、薬の形状などの相談を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日本舞踊をしていた方が数名いらっしゃるのので、秋には全員浴衣に着替え盆踊りをしています。また、父の日には男性入居者だけで居酒屋へ出かけたがり、今までの生活歴を大切に支援に努めています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍ではありましたが、感染対策をして近所のサンドラックやイオンに買い物へ行ったり、季節毎、桜や曼珠沙華、稲刈り、バラ園などへでかける他、宮ヶ瀬ダムや飯山温泉郷へ遠足へ出かけました。必要毎、デイサービスと連携し、バスを借りています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人が居室でお金を管理することはありませんが、近所の買い物時は、ご利用者にお支払い工程をお願いしております。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	コロナ禍、各ユニットに専用の携帯を用意し、24時間365日、いつでもご利用者にご家族が連絡をとれる環境を整えました。また、手紙を文通している方もいらっしゃいます。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間は清潔を心掛けています。また、季節を感じられるようフロアや玄関などあちらこちらに季節の生花および造花、タペストリーを飾っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各居室が用意されているので、一人になりたい時はお部屋で過ごされ、みなさんと交流されたい時は、自席のほかにフロアに2か所ソファを用意し、ご利用者同士団欒できるよう環境を整えています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	照明やカーテン、エアコン、介護ベッドを備え、ご自宅で使い慣れた棚やタンスはご持参頂いています。居室の清掃は、毎日の日課として職員と一緒にご利用者に行ってもらい、足りないところはクリーンサポーターが実施しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご利用者が一緒に掃除や家事が行えるよう、ご利用者が手に届く場所に生活用品を置くようにしております。		

2022年度

事業所名 ツクイ厚木荻野グループホーム

作成日：2023年5月9日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		コロナ禍が後押しし、自治会および地域の産学官民、また、同業者間の交流および連携が行えていない。	地域の方々が当営業所に来所し、顔の見える関係が築ける。	1) 睦合中学、厚木北高校、工科大の学生のボランティアや職業体験などの企画提案を学校と行う 2) 近隣のDS、小多機、GH、ショート等、同業者間が共同してなにか企画したい（荻野運動公園で荻野地区、施設対抗風船バレー大会など） 3) イエローハットやTOYOTAなど企業の介護相談や説明会、GH見学等を実施しする 4) 厚木市内のGHに呼びかけ、市内GHバスツアーなどSQや情報共有に資する活動を行う	12ヶ月
2		丸三年、運営推進会議の開催が書面のみとなっており、施設とご家族、またご家族間、そして外部との意見交換の場が絶たれている。	二か月に一回、対面で運営推進会議を開催することができる	1) ご家族に交代で出席を促す 2) 隣の喫茶店を借りる 3) 本人、家族、職員のほか、地域包括ケア推進課、包括、自治会長、民生委員、外部評価機関、生活支援員等々の出席を依頼する 4) 運営推進会議の際、喫茶店で利用者に店員になってもらうなど併せて企画ができれば	12ヶ月
3		介護計画書の作成において、コロナ禍のため、電話での聞き取りに留まっていた。結果、アンケートにおいて「説明を受けたが話し合っていない」というご家族割合が28.6%に上り、喫緊で改善する必要がある。	ご家族アンケートの「職員は介護計画書をご家族にわかりやすく説明し、一緒に内容に関する話し合いをしていますか」という割合が9割以上となる。	1) 介護保険認定期間終了1～2か月前にご家族にご来所頂き、計画書についてご意見を頂く機会を作る 2) 上記に、本人、計画作成担当者、居室担当者、ユニットリーダーを同席してもらう 3) 上記、来所が難しい場合、ご要望等々書き出せるよう要望書を作成し、それを基に電話で話し合いを行う 4) 来所があった際は、電子媒体の介護計画に基づく介護記録内容をご家族にもみて頂き、日頃のケアとの関連性を把握して頂く 5) 認定期間終了が数年先の方は、1年に1回はご来所頂き、介護計画の点検を一緒にして頂く	12ヶ月
4		ご家族アンケートにおいて、「今のサービスに大変満足している」ご家族割合が57.1%であり、6割以下の現状。ケアの可視化やご家族が安心できる取り組みをとおして、「大変」満足している割合を向上させる必要がある。	ご家族アンケートの「今のサービスに大変満足している」ご家族の割合を7割以上にあげる。	1) 2023年5月分から、ご家族にお渡しする近況報告を管理者から居室担当職員に移行。よりご家族に職員を身近に感じてもらう 2) 2023年6月より運営推進会議の対面開催を行い、職員も交代で同席へ 3) 新たに行事カレンダーを作成し、近況報告とともに配布する 4) 職員の資格取得報告をホームページに掲載したり、介護職員さんから〇〇さんへと親近感をもって頂けるようなアナウンスを行っていく	12ヶ月